



～挑戦・輝き・感動～

(いのち)
生命 輝く学校

平成30年1月9日(火)

相模原市立共和中学校
平成29年度 第9号

「親として」

教務主任 長田 裕介

私事ではあるが、私には二人の息子がいる。長男は、昨年の春、大学を卒業し、九州の企業に就職して、福岡で一人暮らしを始めた。

長男が独り立ちし、妻と私、そして次男との三人暮らしとなった。皆、初めての経験である。初めの1、2週間ほどは、長男の不在について、彼はちょっと長い旅行にでも行っているような感覚であった。だが、そのうち言いしれぬ寂しさを感じるようになった。それが日に日に増幅していくようになり、休日にたった一人で過ごしているときなど、自力では抗うことのできないほどの、寂しさに襲われるようになった。

息子たちが中高生だった頃は、二人には、社会人になったら、すぐに自活して欲しいと妻とともに願っていた。

ところが、いざその時を迎えると、心に大きな穴の開くほどの喪失感を味わうこととなったのである。この心理状態を「空の巣症候群」と呼ぶらしい。

季節は巡り、8月。今度は次男が家を出て、都心で生活を始めた。

ついに、妻とのたった二人での生活となった。二十数年前の生活の再来である。(二人とも大分、年をとったが)

そして現在、「空の巣症候群」は完全には癒えていないが、たった一人の時など、その時間を楽しめるようになってきた。

また、これまで2回、長男は休暇をもらって帰ってきたが、初任給で買った父母へのプレゼントはおろか、明太子の一つも土産として買ってこなかった。「こんなものなのかねえ。」と妻と二人で首をかしげたものである。

だが、今でも、息子たちが小さかった頃を度々思い出す。テレビ番組のヒーローになりきっている姿、夜中に高熱を出し、メディカルセンターに慌てて連れて行ったこと、テーマパークでのきらきらした瞳…。

さて、皆さん、お子さんとともに過ごす時間を大事になさっていますか？

始業式で話したこと…

明けまして、おめでとうございます。保護者・地域の皆様におかれましては、本年も本校の教育活動へのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、平成30年の幕開けにあたる三学期始業式では、次のような話をしました。



年末やお正月に行われた高校生や大学生による全国規模のスポーツ中継を観ていて感じたことを話します。

トップアスリートである彼らは、勿論、日々厳しい練習に励み、自己管理を徹底して試合に臨み、高いパフォーマンスを発揮していて素晴らしいと思いますが、彼らの全てが「文武両道」とかという、決してそうではないのではないかという疑問が生じてきます。

その理由は、スポーツ強豪校に入る学生の多くは、推薦入試で入ってくるからです。それ自体を否定するつもりはありませんが、私の中には「文武分業」という言葉が、どうしても浮かんできてしまいます。

さて、皆さんはどうでしょうか？ 同好会活動のみならず、校外での活動に参加している生徒も、自らの生活を振り返ってください。同好会や校外での活動などに熱心に取り組むのと同じように、そして、それ以上に、学習に取り組んでいますか？ そうでなければ、真の「文武両道」には成り得ません。

さらに、私が皆さんに期待したいのは、「文武生三道」です。この意味は、「文」は学業、「武」は同好会や校外での活動など、「生」は日常の生活態度のことです

この三つがしっかりできる生徒が増えれば増えるほど、共和中学校は素晴らしい学校になります。これが、私が理想とする「普通の学校」です。共和中学校は体育学校でも、芸術学校でもありません。

そして、この「普通の学校」をめざすことこそが、公立学校の最大の使命であり、永続的な学校の安定に帰結するということを、常日頃から先生方をお願いしています。是非、皆さんにも理解してほしいと思います。

本日、別紙にて、「学級担任及び教科担任の変更に関する通知」を全家庭向けに配付いたしました。つきましては、何卒、学校事情をご理解いただくとともに、何か不明な点などがありましたら、遠慮なく、副校長又は校長へお問い合わせください。(編集・文責 校長 山口則夫)